

蒲郡市公共施設マネジメント実施計画に基づく塩津地区個別計画（案）及び西浦地区個別計画（案）

パブリックコメント募集で提出された意見及び意見に対する考え方

（平成 30 年 6 月 4 日から平成 30 年 7 月 3 日まで実施）

No	提出者	地区	意見の概要	意見に対する考え方
1	A	西浦	<p>コンセプトは、機能を集めて、「教育」と「交流」の拠点を つくるという計画に賛成します。しかし、施設再編の内容の 2つめの●を現在の西浦小の敷地に集合させることと、4つ 目の●西浦保育園の敷地に児童館を集合させる件で、現状の 施設を使うのであれば、反対します。（必ず、施設を全て立て 替えること、グラウンドを広げることが賛成の条件となりま す）</p> <p>なぜなら、小学校の現状の敷地内に、今ある西浦小の建物 を使って、小学生と中学生と一緒に学校生活を送るには、今 の施設やグラウンドの広さ、安全面等において危険性が多く、 小中共有することがマイナスになる可能性が高い。</p> <p>だが、敷地面積を広げ、建物（校舎、体育館、運動場、プ ール等）を立て替えて、小学生も中学生も充実した学校生活 が送れる施設を作ってくれるのなら、賛成です。</p> <p>そこで、質問</p> <p>【質問1】 施設・校舎は、立て替えをするのか、グラウンド を広くするのか、敷地面積を広げるのか、どうか、お考えを お聞かせください。</p> <p>また、その財源は市の財政で本当に、確保できるのか？そ の見直しをお聞かせください。 ＜その他の6つの地区の公共施設マネジメントも含めての 財源も考慮し、お聞きしたい。＞</p>	<p>施設の建替えをするのかということについては、老朽化し た施設を建替えていくにあたり、将来を見据えた施設や機能 の配置の大枠を地区個別計画（案）で示しております。</p> <p>今後の事業実施に向けた基本計画づくりでは、機能配置の 具体的なプランの検討や学校運営や公民館運営の影響を考慮 した事業実施方法、建物の老朽化度を含めた適切な建替時期 の検討、財政負担の平準化策などを検討し建替えの時期を決 めていきたいと考えております。</p> <p>また、グラウンドを広くすることや敷地面積を広げるなど についても、事業実施に向けた基本計画づくりの過程におい て検討する事項と考えています。</p> <p>公共施設マネジメントを進めるにあたっての財源について は、その時々々の財政状況を鑑み、教育施設整備に対する国庫補 助金や市債などを活用しながら施設の整備等を進めていく必 要があると考えています。</p>
2	A	西浦	<p>【質問2】 もし、立て替えやグラウンド拡張する時（工事中） には、学校側の意見（活動に支障がないものにする）を踏ま えて設計し、立て直しをしてもらいたい。</p>	<p>西浦地区個別計画（案）では西浦小学校の敷地に西浦小学校 と西浦中学校、及び公民館の機能を集める計画となっております。 計画では平成31年度までに事業を実施するための基本 計画をつくることとしております。基本計画づくりにおいて は、機能配置や施設の運営方法、または提供するソフト事業な ど教職員等の運営実務者を含めた検討を進めます。</p>
3	A	西浦	<p>【質問3】 小中学校は同じ敷地内にあるだけなのか、それ とも小中一貫校にするのか、についてお考えをお聞かせくだ さい。</p> <p>また、校長、養教とも1人の人事配置となるのか、教えて いただきたい。</p>	<p>小学校と中学校が同一の敷地に集まることに対する学校の 運営方法はさまざまな形態があると認識しています。西浦地 区個別計画（案）の整備を進める上で配慮することの項目にも 記載がありますが、これらの学校教育のあり方については、教 育委員会が主体となり9年間を見通した教育を軸に検討がさ れていきます。教職員の配置についても同様です。</p>
4	A	西浦	<p>【質問4】 来年度中に西浦地区の個別計画の実施計画を立て る見込みだが、実際に、この事業での工事に着工するのは、 具体的にいつごろ始めるのか、その予定を教えてください。</p> <p>また、立て直しをする時、小学生の授業は、どこで行うの か？プレハブを建てて行うのか等の計画の見込みを教えて ください。</p>	<p>今後の事業実施に向けた基本計画づくりの過程において検 討する事項と考えています。</p>
5	A	西浦	<p>【質問5】 現在、西浦小のグラウンドに公道がありますが、 早く敷地を購入できないものなのか？</p>	<p>西浦小学校のグラウンドと校舎の間には、住民の皆様が通 行する通路があり、誰でも通行できる状態に対しての懸念は、 平成29年度に開催したワークショップでもご意見をいただき ました。この通路については、今後の基本計画づくりの中で、 運用等について検討していきたいと考えています。</p>
6	B	共通	<p>日本が少子高齢化する中で、蒲郡市も例外ではなく、「蒲郡 市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標の第1に「子 育て世代の希望をかなえるまちづくり戦略」があげられ、「安 心して出産可能な環境づくり」、「子育て支援体制の充実」が 明記されている。若者が蒲郡に住み、次世代を育てようと考</p>	<p>公共施設白書で試算した6年間は公共施設の更新が最も少 なかったとのご指摘ですが、この期間中には消防署の建設や 形原中学校校舎の建替え、形原公民館の建設、蒲郡公民館の建 替えなど事業が少なかったとは考えておりません。</p> <p>長寿命化については、長寿命化シナリオの試算では、50年</p>

No	提出者	地区	意見の概要	意見に対する考え方
			<p>えるとき、保育施設の充実と保育内容、学校施設の充実と教育内容の保証は極めて重要である。</p> <p>このような時、公共施設の維持・更新費の節減のために学校に保育園、公民館等を集積し、複合化することが蒲郡の将来のために良いことか、多面から考えよう。</p> <p>1、維持・更新費は本当に不足するか</p> <p>公共施設マネジメント計画には、標準シナリオで公共施設を維持・更新すると50年間で1,801億円必要であり、長寿命化すると1,323億円になると明記されている。</p> <p>公共施設統廃合のワークショップにおいては標準シナリオで計算すると、年間の維持更新費を18.6億円とすると50年間で871億円不足する、当面の30年分は523億円不足すると計算し、この額を削減する方策を考えよという。</p> <p>公共施設の長寿命化をするといいいながら、維持・更新費の不足額を算出するに際しては標準シナリオでの額を使うことは、誤って標準シナリオの額を使ったのでなければ、なぜ市民をペテンにかけようような計算をするのか明確に説明をすべきである。</p> <p>上記の長寿命化シナリオでの額で維持・更新をすればそれだけで478億円節減できる。ラグーナへの助成金等、他に節減をすれば公共施設の統廃合をしなくても、現状の施設の維持・更新が可能となる。</p> <p>実際全国には長寿命化シナリオで、施設の統廃合を極力抑えた政策をとっている自治体も存在する。</p> <p>同時に1年間に公共施設の維持・管理に使える財源が18.6億円ということについて、直近の公共施設の更新が最も少なかった6年間の平均から算出しているが、市税が公共施設の維持・更新に投じられることが地域の経済の回転に資する点を考慮するとき、緊縮支出一本でいいのか。地域経済の活性化のためには、市の財政見通しから合理的な額を算出すべきではないか。</p> <p>財源問題が存在しないとなったら、公共施設の統廃合問題は振出しに戻る。競艇場と、下水などインフラ、プラント系は対象外としています。競艇場は、建て替えたばかりと言いますが、「コンパクトに費用も安く」の議会説明は裏切られました。下水道は今後も工事を続ける予定ですが、人口が減っていくと言いつつながらインフラを進めるとは、矛盾しませんか？</p>	<p>間の期間で考えればご指摘のとおり見かけは標準シナリオより478億円減少しますが、これは建替えの時期が20年遅くなるのが原因で減少するものです。従って更新費が賄えない建物の更新が集中する時期が先送りになることを意味している事となります。</p> <p>目標達成のために長寿命化を実施することとしておりますが、これは、全ての建物を長寿命化シナリオどおりに長寿命化を実施するのではなく、施設によって個別に判断し実施していくことで、更新時期と費用の平準化を図るものです。</p> <p>また、長寿命化で建物の老朽化を遅らせて、長期にわたって安全に建物を利用するにはコストがかかります。このコストは、建物の老朽化状況によっては多大になる場合もあり、一律に長寿命化を実施することは適切ではありません。限られた財源の中で長期にわたって維持するコストと建物を更新するコストのバランスを十分に考慮して施設の更新時期の平準化を行っていきます。</p> <p>今後の財政状況は、歳入の根幹となる市税収入は横ばいの状況であり、歳出については、少子高齢化の影響により、社会保障関連経費における義務的経費は増加傾向にあり、この傾向は、今後も続くものと考えられます。</p> <p>このような財政状況のなか、公共施設マネジメントを進めるにあたり、その時々々の財政状況を鑑み、教育施設整備に対する国庫補助金や市債などを活用しながら施設の整備等を進めていく必要があると考えています。</p>
7	B	西浦	<p>2、西浦地区の個別計画案（ワークショップの最大多数の意見をもとに財務課が作成した？）が目的を達成できるかを検討する。</p> <p>西浦地区は、小学校敷地内に中学校と公民館を集合させるが、そのコンセプトは「機能を集めてつながりを持たせ、『教育』と『交流』の拠点を作る」ということであって、ワークショップの第一の目的の、維持・更新費を削減するために複合化を考えるということがコンセプトにない！加えて複合施設が建設費を含めて将来にわたって本当に安価に維持・管理できるか全く検討がない。</p> <p>期待される効果の項目を探すと5つの効果の最後に「施設の共用や規模の適正化により維持更新費が縮減できる。また、運営の効率化や一元的な管理により、運営面での費用の縮減が可能となる。」とある。しかし、私が知るところでは、現在、全国の小中一貫校において、校舎を統合した施設を作っているところは施設建設に多額の費用を使っていると聞く。</p> <p>複合施設を作るのだから安くはならないと考える方が自然ではないか。</p> <p>「運営の効率化や一元的な管理により」とあるのは、この</p>	<p>公共施設マネジメントでは、今後迎える人口減少を起因とした大きな社会変動に対応した施設配置を通して、将来にわたって維持可能な施設規模に適正化していく事を5つの基本方針のうちの1つとしております。基本方針は、適正化以外に4つの要素を持っており、どれも重要なものとなっております。基本方針で示した「魅力」では社会変化に対応した魅力ある公共施設への再編を掲げており、地区の皆様が身近に利用する公共施設では重要な要素であると考えています。その要素をコンセプトとして標記しております。</p> <p>また、同一敷地で小学校と中学校が運営されることを西浦地区個別計画（案）では示しています。全国には様々な形態の学校が運営されており、同一敷地に小学校と中学校が設置される場合のやり方は、大きく分類すると、小中一貫教育のほか、小中を併設するだけのものがあります。</p> <p>蒲郡の教育のあり方についてはご指摘のとおり教育委員会が決めることだと認識しています。なお、地区個別計画（案）を策定するにあたり、記載される内容についての協議をこれまで教育委員会も含めて全庁的に行ってきました。</p> <p>今後の事業実施に向けた基本計画を策定する際にも、教育委員会を含めた体制で検討を進めていきます。</p>

No	提出者	地区	意見の概要	意見に対する考え方
			<p>小中学校の複合施設は一人の管理者で管理されるということを決めているということか？</p> <p>加えて、整備を進めるうえで配慮することという項目の中に、「施設再編後の学校教育の在り方や方法について、教育委員会が主体となり、9年間を見通した教育を軸に検討します。」と書いてあるが、これは小中一貫教育をこの蒲郡で実施することを前提に書かれている言葉か？西浦が小中一貫教育にされるということは、全市的に小中一貫教育が行われるということか。この2点については、教育委員会が市民の意向を聞きながら決めることではないか？公共施設の統廃合を口実に、財務課が教育委員に教育制度の改変を求めることは越権行為であるし、初めに書いたように若い世代が蒲郡で子どもたちに教育を受けさせることに心配をしなくて済むようにするためには、教育にかかわる住民の意向の調査が必要ではないか。</p> <p>これでは複合施設を作ることに目的があって、公共施設の維持・更新に多額のお金がかかるという話は口実に過ぎないといえる。</p>	
8	B	塩津	<p>3、塩津地区についてコンセプトを見ると、小学校に二つの保育園と公民館を集合させるが、コンセプトは「集まりやすい位置に『子育て』と『交流』の拠点をつくる」ということであって、ワークショップの維持・更新費の節減という目標はコンセプトにない。</p> <p>費用の縮減は期待される効果の記述は最後にあって、「施設の共用や規模の適正化により維持更新費用が縮減できる。また、運営の効率化や一元的な管理により、運営面での費用の縮減が可能となる。」とある。しかし、整備を進めるうえで配慮することとして、「詳細な検討を行う中で、駐車場、グラウンドなど、必要な機能を確認し、機能の維持に努めます。」「こどもの安全確保や学校教育に支障が出ないように十分に配慮して、施設の設計や運営方法の検討を進めます。」とすると「施設の共用や、規模の適正化」で維持・更新費が縮減できないのではないか。</p> <p>狭い敷地に小学校と保育園という異質な機能を一カ所で確保し、併せて登下校時を含めて安全を確保してほしいという地元の要望を考慮するとき、「複合施設の維持・更新費が費用の削減」にはつながらないのではないか？</p> <p>小学校に中学校を集中する、あるいは小学校に保育園を集中するというとき、第一に配慮されることは学校教育と子育ての機能が維持できるかということであろう。</p> <p>若者が蒲郡に定住し子育てを行うことを考慮するならば、蒲郡市における教育機能を確保できるかどうかは第一に検討されなければならないと考える</p> <p>ところが、整備を進めるうえで配慮される項目の第一に駐車場が挙げられ、地区住民の利用しやすさが初めにあり、担当者が何を考え、何を考えていないかがよく見える。</p> <p>さらに、塩津地区では西浦と異なり、学校教育と子育ての保育という、国の管轄省が異なる内容を一元管理できるのか。検討した結果記述しているのか。</p>	<p>塩津地区個別計画（案）を策定するにあたっては、全市的に内容を協議し策定しております。整備を進めるうえで配慮する項目についてはどれも重要な要素として捉えており、記載の順番は大きな意味を持たせておりません。</p> <p>「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について」（学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議）によると、保育所や児童館等の児童福祉施設と複合化した学校は全国で延べ473校あります。（平成26年5月1日現在）</p> <p>これらの事例からみても、国の管轄省が異なる学校と保育園の機能を同じ敷地に配置することは、可能だと考えられます。</p>
9	B	共通	<p>4、改築費を30万円/㎡で計算していると聞いた。全市型の施設は市役所、病院、市民会館等、高度の機能が集中し単価が高いと考えられる。対して、地域の学校、保育園、公民館は入れ物が中心で単価は低いと考えられる。安い地域型施設を無理に縮小してわずかの金を惜しみ、使い勝手を悪くし、教育機能に支障をきたすことがあってはならない。全市的な施設、地域型施設の、すべての施設の維持・更新費を明確にし、何が無駄か考える必要がある。一律に施設面積削減とい</p>	<p>蒲郡市公共施設マネジメント実施計画では、一定条件下での将来かかる費用のシミュレーションを行っており、建替単価は一律で30万円/㎡とすることを1つの条件としています。</p> <p>公共施設マネジメントでは、施設の魅力と保有量の適正化をバランスよくマネジメントする必要があります。そのため、保有量の縮減を考えるには、利便性や公共サービスの質の面を含めた総合的な判断をしていきたいと考えています。</p>

No	提出者	地区	意見の概要	意見に対する考え方
			う話は乱暴である。	
10	B	共通	<p>5、担当の市職員との意見交換、共同が必要。</p> <p>西浦、塩津地区の施設の統合案を分析すると、住民の思い付きを羅列し、その思い付きがどのような結果をもたらすか、討議・検討することなく多数決的に統合案が作られている。</p> <p>何故このようになるかと考えると、ファシリテーターの役割に問題がある。ファシリテーターは委員の意見を引き出すことには優れているが、矛盾する意見について議論を深め、問題の解決方向を探すということをしない。蒲郡市民ではないファシリテーターはそこまで責任が持てない。</p> <p>ファシリテーター任せではなく、委員と、市職員とが意見を交わし、蒲郡市の未来の最善のありようを模索することこそが必要ではないか。</p>	<p>ファシリテーターは、ワークショップ参加者のご意見を中立的な立場でお聴きするための司会進行役です。</p> <p>地区個別計画（案）の策定に向け、検討過程において地区の皆様と市とが、ワークショップ、全戸配布チラシやパネル展示型説明会による検討内容の周知や意見募集など、コミュニケーションを取りながら、段階的に検討を進めてきました。</p> <p>地区個別計画（案）の策定に向けた検討は、市において全庁横断的な体制の下で進めてまいりました。各検討段階で地区の皆様のご意見を踏まえて検討を進め、この度2地区の地区個別計画（案）を取りまとめました。</p>
11	C	塩津	<p>1、公共施設について、地元の市民が何度も真剣に話し合いをされたことは、おそらく、これまで、なかったことで、そのこと自体は画期的だとは思いますが、しかし、これから50年先まで考えるようなことを、わずか5回の、しかも30名前後で、案を決めさせ、それがまるで地元の総意であるかのような扱いには、問題があると考えます。この地域をどうしていくかを、どういう視点で考えるか、専門的な見地のサポートが必要ではないでしょうか。</p>	<p>地区個別計画（案）の策定に向けた検討は、市において全庁横断的な体制の下で進めてまいりました。各検討段階で地区の皆様のご意見を踏まえて検討を進め、この度2地区の地区個別計画（案）を取りまとめました。</p> <p>ワークショップは、地区の皆様のご意見をお聴きする取り組みの1つです。ワークショップのみではなく、パネル展示型説明会や地区の全戸へのチラシ配布を行いご意見の募集を行うなど、各検討段階で、市の検討内容をお知らせし、地区の皆様からご意見をいただける中で検討を進めてきました。</p> <p>今後進める事業実施に向けた基本計画づくりでは、運営実務者との協議を行い、保育や教育等の専門的な立場からの意見を聴きながら検討を進めます。</p>
12	C	塩津	<p>2、保育園と小学校、公民館、児童クラブを複合化する案ですが、保育、教育の専門家の意見を、同時に聞くべきと考えます。それぞれの発達段階に必要な時間、空間は違うはずで、とにかく何か、複合化しなければならないから、問題の少なそうな組み合わせを地元選ばせるのではなく、子どもにとって最善の利益、環境を用意するのが、行政の努めではありませんか。</p>	<p>機能が集合しても保育や教育に支障が出ないように、今後の事業実施に向けた基本計画づくりの段階において、運営実務者との協議を行い、設計や運営方法を検討していきます。</p>
13	C	塩津	<p>3、保育園の送迎の集中による交通の心配、駐車場の確保など、案に対する心配の声に応えるものが市にありません。</p>	<p>今後の事業実施に向けた基本計画づくりの段階において、送迎時の安全確保や駐車場の確保の具体的な方策について検討していきます。</p>
14	C	塩津	<p>4、複合化、多層化で、エレベーターの設置を求める声もありましたが、建設費、維持費用がかさみます。土地がないなら、いざしらず、わざわざ集めてコストのかかる建物にするのは変です。平屋であれば、建設費も高くないはずで。</p>	<p>愛知県の「人にやさしい街づくりの推進に関する条例」により、3階建以上の学校には、新築や改築の場合、エレベーターの設置が義務づけられています。</p> <p>仮に現在の塩津小学校を同規模で改築するとした場合でも、エレベーターの設置が必要になります。</p> <p>利用するすべての人にやさしい施設とするためには、移動を円滑にするための設備の設置が必要になり、そのための費用は必要経費であると考えています。</p> <p>また、一般的に、同じ床面積で建設する場合、複層階の建物よりも平屋建の方が建設コストが高くなるものだと認識しています。</p>
15	C	塩津	<p>5、特に子どもやお年寄り、地面に近い暮らしがいいと思います。災害時にも危険が少ないはずで。</p>	<p>バリアフリーや災害からの安全が確保された施設づくりを進めていきます。また、多世代交流や機能間の相互利用により、高齢者の活動機会が増え、元気に暮らせるよう、設計や運営面での工夫を行います。</p>
16	C	塩津	<p>6、人口が少なくなるなら、ゆとりをもった美しい町並みを</p>	<p>階層数については、事業実施に向けた基本計画づくりの過</p>

No	提出者	地区	意見の概要	意見に対する考え方
			めざすべきではないでしょうか。蒲郡の景観を整えていくのは、多層化ではないと思います。	程において、利用や運営のしやすさ等から総合的に検討を行っていきます。
17	C	塩津	7、地区計画は、膨大な資料、会議後のまとめとかわら版の充実度をみると、職員の負担が膨大であると推測されます。1年に2地区も取り組むのは、職員の労働時間から考えても、危険です。	職員にご配慮いただきありがとうございます。引き続き法令を遵守し、適正な労働環境を維持していきます。また、事業を拡大する際には、業務量に応じた職員の体制を整えます。 また、今後の事業実施に向けた基本計画策定の際には、業務の一部の外部委託を予定しています。
18	C	西浦	1、公共施設について、地元の市民が何度も真剣に話し合いをされたことは、おそらく、これまで、なかったことで、そのこと自体は画期的だとは思いますが、しかし、これから50年先まで考えるようなことを、わずか5回の、しかも30名前後で、案を決めさせ、それがまるで地元の総意であるかのような扱いには、問題があると考えます。この地域をどうしていくかを、どういう視点で考えるか、専門的な見地のサポートが必要ではないでしょうか。	地区個別計画(案)の策定に向けた検討は、市において全庁横断的な体制の下で進めてまいりました。各検討段階で地区の皆様のご意見を踏まえて検討を進め、この度2地区の地区個別計画(案)を取りまとめました。 ワークショップは、地区の皆様のご意見をお聴きする取り組みの1つです。ワークショップのみではなく、パネル展示型説明会や地区の全戸へのチラシ配布を行いご意見の募集を行うなど、各検討段階で、市の検討内容をお知らせし、地区の皆様からご意見をいただける中で検討を進めてきました。 今後進める事業実施に向けた基本計画づくりでは、運営実務者との協議を行い、保育や教育等の専門的な立場からの意見を聴きながら検討を進めます。
19	C	西浦	2、小学校敷地に中学校、公民館、児童クラブを複合化する案ですが、小学校と中学校は、授業時間も違い、体格的にも小1と中3では、まったく違います。プールだけ考えても、無理がありませんか。文教委員会で視察した学校は、部活動のグラウンドがとれず、結局、中学生は、元の中学校まで、毎日、放課後は通っていました。当然、先生も行かなければならず、子どもにも先生にも負担となっていました。小学校、中学校の教育の専門家の意見を、同時に聞くべきと考えます。それぞれの発達段階に必要な時間、空間は違うはずですが、ともかく何か、複合化しなければならないから、問題の少なそうな組み合わせを地元選ばせるのではなく、子どもにとって最善の利益、環境を用意するのが、行政の努めではありませんか。	今後進める事業実施に向けた基本計画づくりでは、運営実務者との協議を行い、保育や教育等の専門的な立場からの意見を聴きながら検討を進めます。子どもの安全確保や教育に支障が出ないよう十分に配慮して、施設の設計や運営方法の検討を進めます。
20	C	西浦	3、西浦は空き家が多い地区なので、空き家対策を一体的に考えていかないと公共施設だけ複合化でききれいになっても、まわりが空き家ばかりでは、住み続けられる地域とならないのではないのでしょうか。	今後の人口減少を見据えて、より豊かな暮らしができるようにするために、西浦地区個別計画(案)を取りまとめました。 一方で、蒲郡市は、極力人口を減らさないために、「蒲郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を掲げ、目標人口に向けて様々な取り組みを行っているところです。
21	C	西浦	4、地区計画は、膨大な資料、会議後のまとめとかわら版の充実度をみると、職員の負担が膨大であると推測されます。1年に2地区も取り組むのは、職員の労働時間から考えても、危険です。	職員にご配慮いただきありがとうございます。引き続き法令を遵守し、適正な労働環境を維持していきます。また、事業を拡大する際には、業務量に応じた職員の体制を整えます。 また、今後の事業実施に向けた基本計画策定の際には、業務の一部の外部委託を予定しています。
22	D	塩津	公共施設のあり方は、まちづくりの一環として総合的に検討されるべきであって、単純にいくつかの公共施設を集合させることを目的とすることに問題があると思います。ワークショップは市民の声を集約するうえで重要ではあると思いますが、話し合いの過程が大事であって、これだけの議論で結論付けするのは少し乱暴すぎる感があります。 小学校と公民館の敷地に2つの保育園、公民館、児童クラブを複合するとの案ですが、保育園を統合することによる肥大化と通園の距離が延びることは問題です。保育園はできるだけ少ない園児でのびのびと保育されることが大事であり、小学生や園児が近くの学校や保育園に安全に安心して通え	地区個別計画(案)の策定に向けた検討は、市において全庁横断的な体制の下で進めてまいりました。各検討段階で地区の皆様のご意見を踏まえて検討を進め、この度2地区の地区個別計画(案)を取りまとめました。 ワークショップは、地区の皆様のご意見をお聴きする取り組みの1つです。ワークショップのみではなく、パネル展示型説明会や地区の全戸へのチラシ配布を行いご意見の募集を行うなど、各検討段階で、市の検討内容をお知らせし、地区の皆様からご意見をいただける中で検討を進めてきました。 塩津地区の施設配置の検討では、様々なプランを比較し検討を進めてきましたが、共働き世帯の増加等の社会の変化に

No	提出者	地区	意見の概要	意見に対する考え方
			<p>ることは基本的な人権の問題でもあります。</p> <p>複合する前提は新築と思われますが、高層化は建築費の増大と新たな維持費の増高を招きませんか。今ある施設を長寿命化し、それぞれのコミュニティを発揮させるべきではないでしょうか。</p>	<p>対応するために、低年齢児保育や延長保育の実現が住民の皆様から強く求められていたことなどから、保育園を統合するプランを採用しました。</p> <p>階層数の検討は今後行いますが、高層化が一概に費用の増大につながるとは考えていません。また、建築費のみでなく運営やメンテナンスの効率化や借地料等も含めて費用を検討していく必要があります。</p> <p>また、費用縮減のためには、長寿命化を適切に行う必要がありますが、同時に、一斉に訪れる更新時期に費用が賄えるよう、費用の平準化も図る必要があります。よって建替えの時期は、事業実施に向けた基本計画の内容、他地区の地区個別計画の内容、財政状況等を踏まえて総合的に判断していきます。</p>
23	D	西浦	<p>公共施設のあり方は、まちづくりの一環として総合的に検討されるべきであって、単純にいくつかの公共施設を集合させることを目的とすることに問題があると思います。ワークショップは市民の声を集約するうえで重要ではあると思いますが、話し合いの過程が大事であって、これだけの議論で結論付けするのは少し乱暴すぎる感があります。</p> <p>小学校の敷地に中学校、公民館、児童クラブを複合するとの案ですが、私は学校教育法や社会教育法を改めて読んでみましたが、小学校と中学校の「目標の達成」には大きな違いがあつて、教育内容やグラウンドの共用のあり方など問題がかなりあると思います。学校の先生や公民館を担当する市役所の職員の声をよく聞いて、問題を解決すべきです。</p> <p>複合する前提は新築と思われますが、高層化は建築費の増大と新たな維持費の増高を招きませんか。今ある施設を長寿命化し、それぞれのコミュニティを発揮させるべきではないでしょうか。</p>	<p>地区個別計画（案）の策定に向けた検討は、市において全庁横断的な体制の下で進めてまいりました。各検討段階で地区の皆様のご意見を踏まえて検討を進め、この度2地区の地区個別計画（案）を取りまとめました。</p> <p>ワークショップは、地区の皆様のご意見をお聴きする取り組みの1つです。ワークショップのみではなく、パネル展示型説明会や地区の全戸へのチラシ配布を行いご意見の募集を行うなど、各検討段階で、市の検討内容をお知らせし、地区の皆様からご意見をいただける中で検討を進めてきました。</p> <p>今後は、学校の教職員や各施設の運営実務者等の意見を聴きながら事業実施に向けた基本計画づくりを進めていきます。子どもの安全確保や教育に支障が出ないよう十分に配慮して、施設の設計や運営方法の検討を進めます。</p> <p>階層数の検討は今後行いますが、高層化が一概に費用の増大につながるとは考えていません。また、運営やメンテナンスの効率化や借地料等も含めて費用を検討していく必要があります。</p> <p>また、費用縮減のためには、長寿命化を適切に行う必要がありますが、同時に、一斉に訪れる更新時期に費用が賄えるよう、費用の平準化も図る必要があります。よって建替えの時期は、事業実施に向けた基本計画の内容、他地区の地区個別計画の内容、財政状況等を踏まえて総合的に判断していきます。</p>